

# フロントライン FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍する社員を紹介する当コーナー。今回は、東南アジアの主力販売拠点であるリンテック・シンガポール社でウインドーフィルムの拡販に努める営業スタッフをご紹介します。

リンテック・  
シンガポール社

いわした しょうへい  
岩下 昇平

2013年入社。産業工材事業部門 建築材営業部(現ウインドーフィルム営業部)などを経て、2016年12月から同社に赴任。

## Q 現在の仕事について教えてください。

主に自動車用ウインドーフィルムの営業を担当しています。シンガポール国内だけでなく、東南アジアで特に需要の高いインドネシアやタイ、ベトナムなどでも拡販を目指し、月の半分はシンガポール国外に出張しています。最近では、自動車用だけでなく、建築業界などに向けて建物用ウインドーフィルムの販売にも注力しています。



## ウインドーフィルム

自動車や建物などの窓ガラスに貼るだけで、さまざまな効果を発揮するフィルム。日射熱による車内や室内の温度上昇を抑制するほか、紫外線を99%以上カットし、ガラス破損時には破片の飛散を低減する機能などを持つ。

## Q 日本と現地の自動車用フィルム市場では、どのような違いがありますか。

ウインドーフィルムの施工率が大きく異なります。日本では車内外からの視認性を確保するため、フロントガラスや運転席、助手席の側面には透明度の高いフィルムしか貼れないなどの規制があり、フィルムの施工率はあまり高くありません。一方、年間を通して気温が高く日差しが強い東南アジアでは、車内の温度上昇を抑えるフィルムがユーザーにとって必需品であり、貼ることが一般的となっているため、日本の数倍の市場規模があります。

## Q 今後、東南アジア市場でどのようにウインドーフィルムを拡販していきますか。

ブランディングがとても重要と考えており、まずは“メイドインジャパン”の高い品質や施工性といった強みをしっかりと訴求することで、リンテック製品の認知度とイメージの向上につなげていきます。また、米国のグループ会社であるウインドーフィルムメーカーのマディコ社や機能性フィルムメーカーのVDI社との連携を深め、より市場のニーズにマッチした新製品の開発・販売強化に努めていきます。



## 東南アジア市場に向けて自動車用ウインドーフィルムを拡販

当社グループでは、自動車用と建物用のウインドーフィルムを「WINCOS」<sup>ウインコス</sup>ブランドで国内外に販売しています。現在注力しているのが、経済成長が著しい東南アジアでの自動車用ウインドーフィルムの拡販です。各自動車メーカーやディーラー、一般ユーザーへのブランディング強化を重視し、英語に加えて現地語にも対応した製品サイトの開設や各地で開催される自動車関連展示会への出展、製品サンプル帳の配布などを通じて、「WINCOS」の強みである高い品質を訴求しています。今般、現地で生産・販売されている車種に本格採用されたことを機に、さらに活動を強化していく方針です。



自動車用ウインドーフィルム



インドネシア語の製品サイト。今後、東南アジアの他言語にも対応予定

## IRメール配信サービスをぜひご利用ください

当社では、株主・投資家の皆様へ決算情報や新製品情報などのニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスを実施しています。このたびシステムを一新し、よりタイムリーに情報をお届けできるようになりました。もちろん無料でご利用いただけますので、ご希望の方は当社ホームページの株主・投資家情報サイトよりご登録をお願いいたします。

- 1** 「IRメール配信のご登録」を押す。またはスマートフォンで以下のQRコードを読み取り、サイトを開く

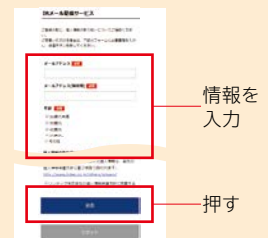
株主・投資家情報サイト  
[www.lintec.co.jp/ir](http://www.lintec.co.jp/ir)



- 2** 「IRメールマガジン新規登録」を押す



- 3** 登録画面で情報を入力し、「送信」を押して登録完了



※ 2019年6月3日以前にご登録された方には、三菱UFJ信託銀行株式会社のIRメール配信サービス「RIMSNET」により配信を行っておりますが、同サービスによる配信は2019年6月末をもって終了させていただきます。大変お手数をお掛けしますが、上記手順にて再登録していただきますようお願い申し上げます。

# うたづくりの仕事

さだ まさし



最近とても気になることがあります。

一つは老人の孤独死、二つ目は高齢運転者による悲惨な交通事故、三つ目は若い親が幼い子供を虐待死させる事件の数々。もう一つがオレオレ詐欺や振り込め詐欺と呼ばれる悪辣卑劣な犯罪です。いずれも『昭和』の頃には頻繁に現れるものではありませんでした。

これらの事故・事件・犯罪はそれぞれ別々の視点で語られるけれども、僕にはその根は全て繋がっているように見えます。

それは「家族構成の変化」です。昭和の中頃までは家の中に祖父・祖母・父・母・子供という《3世代同居》の時代がありました。わざわざ高齢者が自分で運転しなくても良かった時代です。また家の中に自然に「老人の眼」があったので、若い夫婦が無残に子供を虐待する前に祖父母が止める事も出来得たのです。更に同居は一家が互いの情報を把握できるため、オレオレ詐欺などは通用しませんでした。年金だけでは生きて行けないという社会制度も大きな問題ではありますが、家族

構成の変化の影響が大きいと僕は考えています。

きっかけは1970年代、若者達が社会の変革を求めの中で、ニューファミリーや核家族、つまり「親と同居せず」という新しい生活ルールが生まれました。若い夫婦達は親に監視されて影響を受け続ける古い家庭から開放され、自分達だけに都合の良い生活空間を作りました。

ただ、当時から僕はこの新しい家族のスタイルに不審を抱いていました。「親と同居せず」のルールなら「子供とも同居せず」です。そして夫婦は二人きりになり、片方が死ねば当然独居になり、やがて独りで死ぬ。当然の帰結です。だが当時僕は、この新しいルールを作った人達はその行く末を「覚悟している」のではなく、「気づいていない」か、或いは「考えたくない」のではないかという疑念を持っていました。

そんな時代に僕はうたづくりを始めたのです。

うたづくりの仕事で一番大切なことは、「変だ」と思うことを「変じゃない?」と問い



### さだまさし

シンガーソングライター、小説家。長崎県長崎市出身。1973年にフォークデュオ「グレープ」としてデビューし、1976年ソロ・シンガーとして活動を開始。通算4,300回を超えるコンサートを行う傍ら、小説家としても活躍。書き下ろし小説の多くがドラマや映画化され、幅広い世代に愛されている。また、2015年8月、風に立つライオン基金を設立（2017年7月、公益法人として認定）。さまざまな助成事業や被災地支援事業を行っている。

かける「勇気」です。表現方法は作り手によるでしょうが、当時僕の作った歌は「精霊流し」「無縁坂」「雨やどり」「秋桜」「案山子」「関白宣言」「親父の一番長い日」など、ことごとく家族の歌でした。

『このままだと日本の家族は壊れないですか?』、ひいては『日本の良さや人情が変質しますよ』、そして『本当に今の流れで良いのですか?』という疑問を歌ったつもりでしたが、僕の歌は「古い価値観を呼び戻そうとする間違っ、危険な考えだ」と強い批判にさらされました。それで僕の歌の真意が届く迄に数十年掛かりました。

歌のテーマは勿論こればかりではありません。「アメリカへの疑問」「拝金主義」「報われない小さな善意」「交通加害者の苦悩」といった難しいテーマも歌ってきました。今でも『メッセージ』こそが歌の真価であると信じています。

だが気づけば、「音楽の質」が急激に変化しました。歌においてそれは顕著です。メッセージ性やオリジナル性が失われ、

コピーを恥とせず、主張は消え、聴くものから観るものになり、人の奏でる音色をデジタルデータが代行します。そこには『複製技術時代の芸術』でヴァルター・ベンヤミンが予見したとおり『アウラ』、すなわちオーラは存在しません。体温も不在です。

憂うべき時代ではありますが、僕は諦めない。音楽家の魂が今こそ最も発揮される時代だと思うからです。音楽には「ライブ」という聖域があります。「ライブ」にはコピーも複製も存在せず、ただストレートに「オリジナルが持つ質」のみが問われます。ある意味では最も怖い現場です。だからこそ、ここで生きようと思うのです。

音楽家として生き残ることはとても大切ですが、もっと大切なことは人として、この国に生まれ生きる人間としての「体温」を訴え続けられる「音楽の居場所」を護ることでしょう。

生命ある限り、「正しい」と思うことを、小さな声でも良いから歌い続けるつもりです。

オリジナル性や音楽家の「体温」が感じられるライブを通じて、歌の真価であるメッセージを伝えていくことを大切にしているさださん。リントックも独自の技術開発を通じて、お客様にとって真に価値のある製品の提供に努めています。

### 連結財務諸表

#### 連結貸借対照表（要約）

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
流動資産	175,597	173,593
固定資産	114,722	119,139
<b>① 資産合計</b>	<b>290,320</b>	<b>292,733</b>
流動負債	72,994	77,849
固定負債	27,099	28,463
<b>② 負債合計</b>	<b>100,094</b>	<b>106,312</b>
<b>③ 純資産合計</b>	<b>190,226</b>	<b>186,420</b>
負債純資産合計	290,320	292,733

#### 連結損益計算書及び 連結包括利益計算書（要約）

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
<b>④ 売上高</b>	<b>250,942</b>	<b>249,030</b>
売上総利益	61,278	62,823
販売費及び 一般管理費	43,300	42,727
<b>⑤ 営業利益</b>	<b>17,977</b>	<b>20,095</b>
経常利益	17,993	18,389
税金等調整前 当期純利益	18,338	16,666
<b>⑥ 親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>12,937</b>	<b>11,257</b>
包括利益	8,954	12,460

#### □ポイント！

##### ① 資産合計

現金及び預金、たな卸資産が増加しましたが、受取手形及び売掛金、のれんが減少したことなどにより、総資産は24億13百万円減少しました。

##### ② 負債合計

退職給付に係る負債が増加しましたが、支払手形及び買掛金、長期借入金、流動負債その他が減少したことなどにより、負債は62億18百万円減少しました。

##### ③ 純資産合計

為替換算調整勘定が減少しましたが、利益剰余金が増加したことなどにより、純資産は38億5百万円増加しました。

##### ④ 売上高

印刷・情報材事業部門と加工材事業部門が減少しましたが、産業工材事業部門やアドバンストマテリアルズ事業部門などが増加したことにより、売上高は19億12百万円増加しました。

##### ⑤ 営業利益

米国子会社の収益改善などがありましたが、単体における販売数量の減少や売上構成の悪化に加え、パルプを中心とする原燃料価格の上昇などにより、営業利益は21億18百万円減少しました。

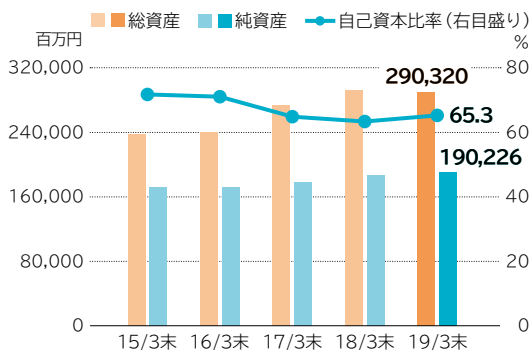
##### ⑥ 親会社株主に帰属する 当期純利益

前連結会計年度に米国子会社において、のれんの減損損失10億41百万円、事業構造改善引当金繰入額10億24百万円を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は16億80百万円増加しました。

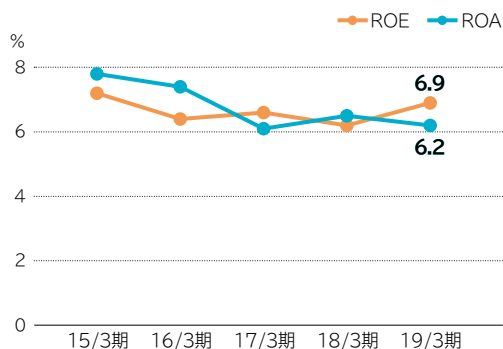
## 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
営業活動による キャッシュ・フロー	22,858	26,819
投資活動による キャッシュ・フロー	△10,299	△7,532
財務活動による キャッシュ・フロー	△8,246	△6,363
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1,051	834
現金及び現金同等物の 期末残高	58,303	55,042

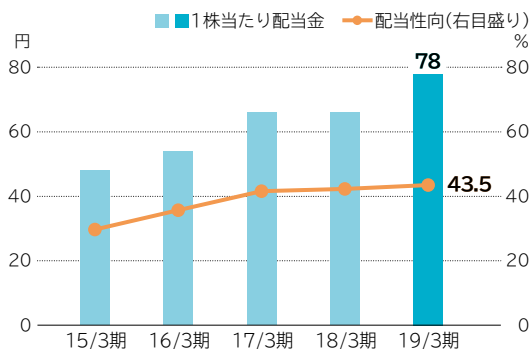
## 総資産・純資産・自己資本比率



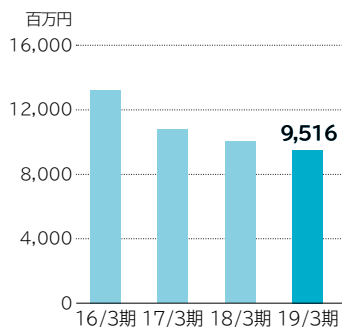
## ROE (自己資本利益率)・ROA (総資産経常利益率)



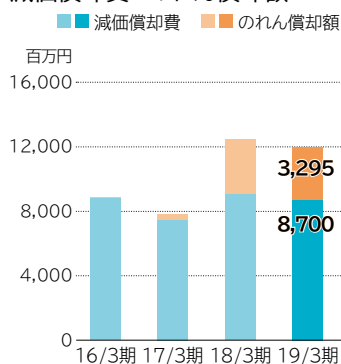
## 1株当たり配当金・配当性向



## 設備投資額



## 減価償却費・のれん償却額



## 研究開発費

